

令和4年3月 記者懇談会

令和4年3月1日

午後2時～午後3時

一戸町役場庁舎2階特別会議室



IGRいわて銀河鉄道ラッピング車両といちのへじょうもんの里こども園の園児たち
(2/16、一戸駅ホーム)

1. トピックス

- (1) 新型コロナワクチン追加接種の実施及び接種状況について
- (2) 組織機構改編について
- (3) 御所野遺跡について
- (4) 一戸町×横浜国立大学 オンラインプロジェクト成果発表会について
- (5) 「地域資源を活かした持続可能なまちづくりに向けて」講演会について
- (6) 「いちのへ いいもの いい暮らし展」について
- (7) ㈱一戸夢ファーム研修生終了発表会並びに卒業式について
- (8) ユーチューバー講座について

2. 行事予定 (令和4年3・4月の行事・イベント等)

3. 懇談 (質疑応答)



Press Release

令和4年3月1日

新型コロナワクチン追加接種の実施及び接種状況について

今後のワクチン追加接種（3回目接種）の実施内容と直近のワクチン接種の状況について、下記のとおりお知らせします。

なお、5歳から11歳までの小児へのワクチン接種については、町内小児科クリニックでの個別接種とし、4月から開始する計画としています。（対象者数は472名（R4.1.1現在年齢））

記

1. 追加接種の実施内容等について

- (1) 接種の方法：集団接種（会場は総合保健福祉センター）
- (2) 接種開始日：2月6日（日）
- (3) 接種日程等（当面5月までの予定）

2月	6日(日)	13日(日)	20日(日)	—	—	—	—	計約 1,600回
3月	6日(日)	13日(日)	20日(日)	—	—	—	—	計約 1,600回
4月	10日(日)	12日(火)	24日(日)	—	—	—	—	計約 1,200回
5月	8日(日)	10日(火)	17日(火)	22日(日)	24日(火)	29日(日)	31日(火)	計約 2,100回

※ 2月と3月は変更対応として、2月22日（火）と3月22日（火）の午後に接種日を設定。

- (4) 接種券（接種券一体型予診票）の発送等
2回目接種後、概ね7ヵ月（4月以降発送分からは6ヵ月）経過する方に順次発送します。
 - ① 65歳以上高齢者（令和4年度中到達者含む）は、接種実施日の概ね1ヵ月前を目途に、接種日時を指定して発送します。
 - ② 64歳以下の方は、コールセンター又は予約サイトにより予約します。
 - ・ コールセンター：午前9時～午後5時（土日祝日除く）
 - ・ 予約サイト：全日24時間 ※ 電場番号等は従前と同じ。
- (5) 使用するワクチン：ファイザー社製又は武田/モデルナ社製

2. ワクチン接種の状況

年代別	人口 A (R3.1.1現在)	接種済数 B (R4.2.28時点)			接種率 (%) B/A		
		1回目	2回目	3回目	1回目	2回目	3回目
65歳以上	5,010人	4,812人	4,780人	1,630人	96.0	95.4	32.5
12～64歳	6,141人	5,376人	5,316人	500人	87.5	86.6	8.1
計 (全人口)	11,151人 (11,899人)	10,188人	10,096人	2,130人	91.4 (85.6)	90.5 (84.8)	19.1 (17.9)

※ 接種回数はVRS（ワクチン接種登録システム）に登録された回数で、今後変動する場合あり。

※ 参考：R4.1.1現在 65歳以上人口4,988人、12～64歳5,875人、全人口11,559人。

令和4年3月1日

組織機構改編について

新たな行政課題への対応強化を図るため、より効率的で機能的な業務組織体制の確立を目指し、令和4年4月1日付けで主に下記のとおり組織機構改編を実施します。

政策企画、SDGs、行政情報化、地域支援、収納対策等の強化を図るほか、世界遺産登録の実現に伴う組織再編等を行います。

記

1. 政策企画部政策企画課の設置

全庁的な重要政策の企画立案を統括するとともに、部局を横断した新たな行政課題に機動的に対応するため、現まちづくり課を改組し政策企画部を設置する。

主な担当領域 (1)持続可能な社会の実現 (SDGs、脱炭素、再エネ等) の取りまとめ
(2)行政情報化 (行政DX) の推進
(3)移住定住施策
(4)町長の政策秘書 (ブレーン) の役割

2. 町民課及び税務会計課の設置

現税務町民課を住民部門と税務部門に分離し、住民部門に現水環境課の生活環境係を統合し町民課、税務部門と現会計課と統合し税務会計課を設置する。

収納対策の強化を図るため、税務会計課内に収納対策室を設置する。

3. 上下水道課の設置

下水道事業等の公営企業化を推進するため、生活環境係を分離し上下水道課とする。

4. 生涯学習・協働推進課の設置

地域団体や、住民活動組織等との協働を推進するため現生涯学習課と現まちづくり課の一部を統合し、町長部局と教育長部局を併任する生涯学習・協働推進課を設置する。

町内各地区において生涯学習・協働推進課と連動した事業を行うため、地区公民館と支所を統合した地区センターを設置する。

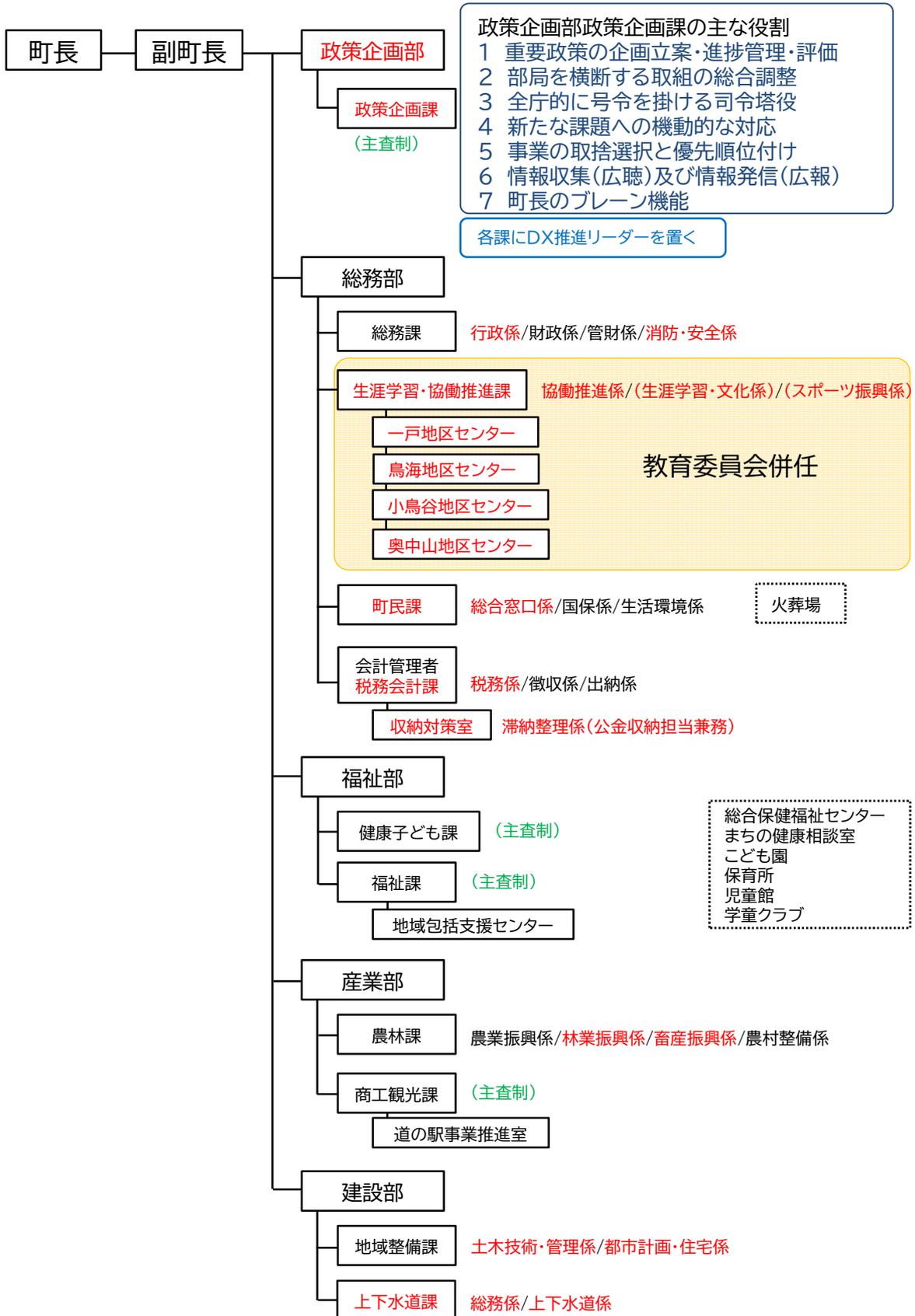
5. 世界遺産課の設置

御所野遺跡の世界遺産登録が実現したため、この保存及び活用を推進するとともに庁内の文化財保護を統括するため、世界遺産登録推進室、御所野事業推進室及び生涯学習課文化財係を統合し世界遺産課を設置する。

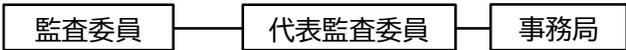
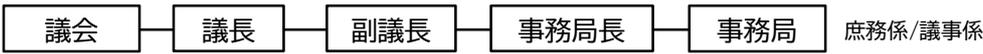
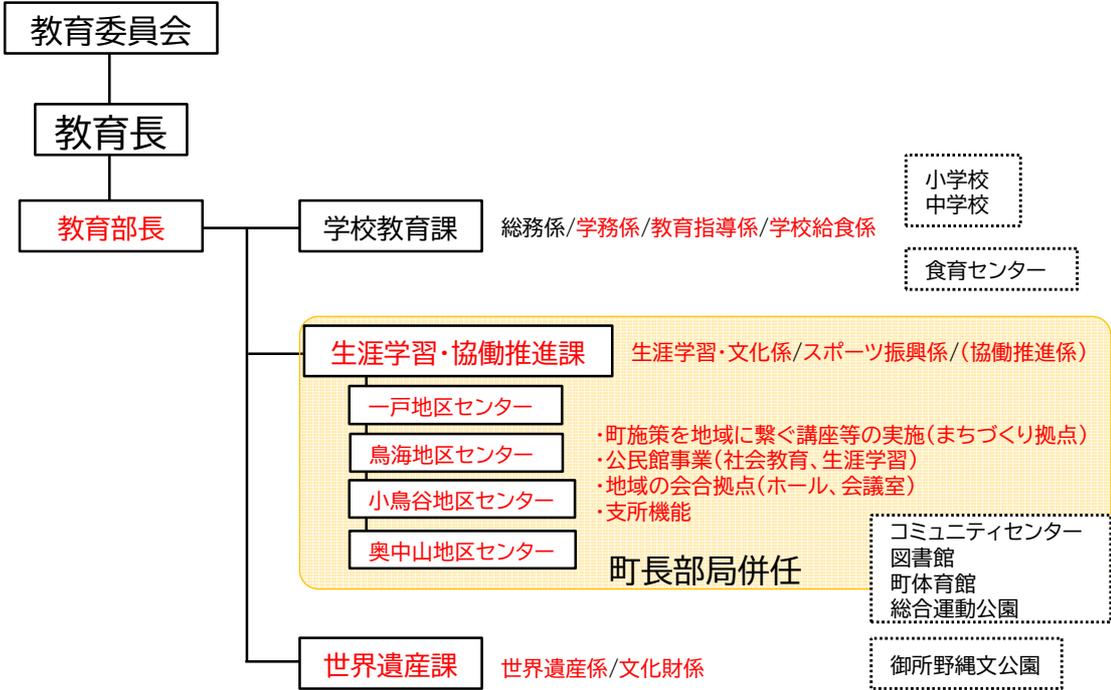
6. その他

業務の所管替え、係の再編・係名の変更等についても合わせて実施する。

町長部局行政組織図



教育委員会部局行政組織図



令和4年3月1日

御所野遺跡について

御所野遺跡を含む「北海道・北東北の縄文遺跡群」について、全県的な普及・啓発を図るとともに、さらなる機運の醸成を図ることを目的に『「北海道・北東北の縄文遺跡群」世界遺産登録記念フォーラム』を下記のとおり開催します。

記

1. 日時 令和4年3月13日(日) 午後1時30分～午後3時25分 ※受付 午後0時30分～
2. 会場 アートホテル盛岡2F 鳳凰の間(岩手県盛岡市大通3丁目3-18)
3. 主催 縄文遺跡群世界遺産登録推進本部
4. 共催 岩手県、岩手県教育委員会、一戸町、一戸町教育委員会
5. 内容 (1)開会挨拶(縄文遺跡群世界遺産登録推進本部 副本部長 岩手県教育長)
(2)講演「縄文里山、そのみごとな循環型生態系」
講師：東京大学名誉教授 辻 誠一郎 氏
(3)報告(ア～エ)
ア「北緯40度 海辺のムラの縄文人の暮らし(力持遺跡を中心に)」
報告者：(公財)岩手県文化振興事業団 埋蔵文化財センター
主幹兼課長補佐 星 雅之 氏
イ「崎山貝塚の取組や御所野遺跡との連携について」
報告者：宮古市教育委員会 文化課・学芸係 学芸係長 長谷川 真 氏
ウ「御所野縄文里山カレンダーについて」
報告者：御所野縄文博物館 峠 友香 氏
「御所野遺跡における縄文里山づくりについて」
報告者：御所野縄文博物館 鈴木 雪野 氏
エ「御所野遺跡の世界遺産登録までの歩み」
報告者：一戸町教育委員会 世界遺産登録推進室
文化財主任 菅野 紀子 氏
(4)閉会挨拶(一戸町長)
6. 入場料 無料 ※事前申し込み不要
7. その他 新型コロナウイルス感染症の影響により、予定内容が変更になる場合あり。

「北海道・北東北の縄文遺跡群」 世界遺産登録記念フォーラム

見えてきた「縄文里山・里海」づくり ～自然に感謝し、自然に育まれる～

●講演

「縄文里山、そのみごとな循環型生態系」

講師：東京大学名誉教授 辻 誠一郎 氏

●報告

「北緯40度 海辺のムラの縄文人の暮らし

(力持遺跡を中心に)」

(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 星 雅之 氏

「崎山貝塚の取組や御所野遺跡との連携について」

宮古市教育委員会 長谷川 真 氏

「御所野縄文里山カレンダーについて」

御所野縄文博物館 峠 友香 氏

「御所野遺跡における縄文里山づくりについて」

御所野縄文博物館 鈴木 雪野 氏

「御所野遺跡の世界遺産登録までの歩み」

一戸町教育委員会 菅野 紀子 氏

●日時

令和4年3月13日(日)

13:00～15:25

●会場

アートホテル盛岡

(盛岡市大通3丁目3-18)

入場無料

※ 事前申し込み不要です。直接会場にお越しください。

主催：縄文遺跡群世界遺産登録推進本部

共催：岩手県、岩手県教育委員会、一戸町、一戸町教育委員会

後援：岩手日報社、デーリー東北新聞社、(一社)岩手県文化財愛護協会
(公財)岩手県文化振興事業団、岩手県立博物館友の会、テレビ岩手
御所野遺跡世界遺産登録推進協会、御所野遺跡ボランティア連絡協議会
NHK盛岡放送局、めんこいテレビ、岩手朝日テレビ、IBC岩手放送

●お問合せ

岩手県文化スポーツ部文化振興課
TEL:019-629-6488
御所野縄文博物館
TEL:0195-32-2652



※新型コロナウイルス感染症の影響により、予定内容が変更になる場合がございます。

令和4年3月1日

一戸町×横浜国立大学 オンラインプロジェクト 成果発表会について

町の抱えている3つの課題について、横浜国立大学の学生8名が3グループに分かれて、解決方法を検討しました。本来であれば参加した学生を一戸町に招いて成果発表会をする予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響により下記のとおりオンラインにて実施いたします。

記

1 開催日時 3月4日（金） 14：30～16：00

2 実施方法 オンラインにて学生が成果発表を行います。
※役場にて町長、副町長などが発表会に参加します。

3 参加者 (1)横浜国立大学
学生8名

蛸名理事、成長戦略教育研究センター 泉センター長、船場客員教授 ほか

(2)一戸町

小野寺町長、鈴木副町長、栗橋商工観光課長 ほか

4 課題

	課題名	参加学生数
①	奥中山高原スキー場 若者のリゾート振興について	4名
②	世界遺産 御所野遺跡 若者への縄文文化の訴求について	2名
③	一戸町由来の新エネルギー消費拡大について	2名

5 その他 来年度、横浜国立大学では、一戸町を含む岩手県を地域課題実習のフィールドとして活動する予定ですので、その中において参加学生には一戸町へお越し頂くことを想定しています。



令和4年3月1日

「地域資源を活かした持続可能なまちづくりに向けて」講演会について

一戸町では、SDGs の理念を踏まえ、町産材のエネルギー利用のさらなる推進とそれによる林業・木材産業の活性化を目指し、岩手県立大学と地域協働研究の取組を進めるなど、持続可能なまちづくりを目指した取組として、下記のとおり講演会を開催します。

今回は、地域協働研究事業として、地域資源を活かした持続可能なまちづくりについて学ぶ機会にしたいと考えています。また、森林資源を活かした循環型社会の構築に向けて、森林が持つポテンシャル等について参加者の理解醸成が図られることも期待しています。

記

1. 日時 3月19日（土） 13：00～16：00
2. 場所 萬代館 （一戸町一戸字本町49）
3. 定員 30名
4. 内容
 - ①『地域でつながる事業価値の組み立て方』
～林産資源を活用したまちづくり～
一般社団法人 CSV 開発機構 専務理事 小寺 徹 氏
 - ②『会津13市町村と進める森林資源フル活用プロジェクト』
～川上から川下まで一貫、苗木を植えてCO2吸収固定価値を提案～
会津森林活用機構株式会社 取締役 小林 靖尚 氏
 - ③『久慈発！木質バイオマス熱の面的利用』
久慈バイオマスエネルギー株式会社 代表 日當 和孝 氏
5. 主催 一戸町、岩手県立大学、(株)柴田産業

令和3年度岩手県立大学地域協働研究

「地域資源を活かした 持続可能なまちづくりに向けて」 講演会

日時: 令和4年 **3月19日** (土) 13:00 ~ 16:00
場所: 萬代館 (一戸町一戸字本町49)

『地域でつながる事業価値の組み立て方』
～林産資源を活用したまちづくり～
一般社団法人CSV開発機構 専務理事 小寺 徹 氏



『会津13市町村と進める森林資源フル活用プロジェクト』
～川上から川下まで一貫、苗木を植えてCO2吸収固定価値を提案～
会津森林活用機構株式会社 取締役 小林 靖尚 氏



『久慈発！木質バイオマス熱の面的利用』
久慈バイオマスエネルギー株式会社 代表 日當 和孝 氏



**参加
無料**

マスクの着用、手指の消毒、
ご連絡先の確認など、新型
コロナウイルス感染対策に、
ご協力をお願いいたします。

**お問い合わせ
申込み先**

一戸町 総務部 まちづくり課 [担当 古舘]
電話 0195-33-2111(内線213)
Mail machi@town.ichinohe.iwate.jp

主催 一戸町 岩手県立大学 (株)柴田産業

令和4年3月1日

『いちのへ いいもの いい暮らし展』について

一戸町地域産品協議会は、ものづくりや食産業に関わる個人や団体で構成される協議会です。
この度、盛岡市の「保護庭園・景観重要建造物」に指定されている『南昌荘』において、3年ぶりに『いちのへ いいもの いい暮らし展』を開催する運びとなりました。

平安時代初期に慈覚大師によって伝えられたと言われる伝統工芸の鳥越竹細工をはじめ、裂織り、箕など暮らしの中で伝え残ってきた工芸品が今もなお一戸には残っています。

伝統を継承しながら、現在の生活にも合うような新しい形をすることで、次の世代にも伝えていきたい、そのような思いで開催します。

つきましては、下記のとおり物産展が行われますのでお知らせします。

記

1. 主催 一戸町地域産品協議会
2. 日時 2022年3月12日(土)～13日(日) 午前10時～午後4時
3. 会場 南昌荘（盛岡市清水町13-46）
4. 出展予定者 山井木工、長山工芸、阿部木工、一戸紬まゆ玉会、裂織工房、いちのへ手技工芸館、サラダボウルこずやほか
5. 出品商品 鳥越竹細工、木工品、天蚕製品、裂織物、菓子類、野菜等の展示販売

※南昌荘への入場料が別途必要となります。（大人300円、小・中学生150円）

※新型コロナウイルスの感染状況によっては中止する場合があります。

令和4年3月1日

(株)一戸夢ファーム研修生修了発表会 並びに卒業式について

株式会社一戸夢ファームでの2年間の研修を終えて令和4年4月から新たに就農する三浦博さんの研修生修了発表会と卒業式について下記のとおり開催します。

記

- 日時 令和4年3月25日(金) 午前10時00分～午前11時35分
10:00～10:50 研修生修了発表会
11:00～11:35 卒業式
- 場所 (株)一戸夢ファーム事務所(二戸郡一戸町奥中山字西田子75-45)
- 内容 (1)研修生修了発表会
卒業生 三浦 博氏が、研修2年目にテーマを決め実践した内容や2年間の研修を通して学んだことについて発表する
(2)卒業式
卒業証書授与、指導部長式辞、代表取締役訓示、来賓祝辞、来賓紹介、祝品授与、卒業生挨拶、記念撮影
- 出席者 卒業生 三浦 博氏、(株)一戸夢ファーム指導員、(株)一戸夢ファーム役員、一戸町役場等の関係機関
- その他 新型コロナウイルスの感染拡大状況等により内容が変更となる場合があります。



令和3年3月1日

ユーチューバー講座について

町と一戸町公営塾では、小学生がなりたい職業ランキングで上位にランクインするユーチューバーになるための技術を学ぶ小学生向け、中高生向けの講座を下記のとおり開催します。

ユーチューブ用の動画を作るために必要なコンピューターのテクニックや、企画から撮影までの流れを知ること、自分の考えを表現する力を養います。

本講座を通じて、一戸町の児童生徒のICTなどに関する知的な探究心を育成し、進路意欲の醸成や将来のデジタル社会を支える人材となることを目的とします。

記

- 日時
3月26日(土) 14:00~17:00 中高生向け
3月27日(日) 10:00~12:00 小学生向け
- 主催
一戸町、一戸町公営塾
- 場所
一戸町コミュニティセンター ホール
- 対象
一戸町内の小学生、中学生及び高校生 (定員: 各20名)
- 講師
株式会社ジブンススタイル(※) 小西智枝美(一戸町出身)
※東京都品川区のIT企業(代表取締役: 斉藤祐輔)。スマートフォンアプリ、Webサービスなどの受託開発や、子ども向けの学習支援施設の運営、子ども向けの学習及びキャリア教育イベントなどを展開。
- 内容
○小学生向け
工作をする過程を紹介する動画を制作する。別の人に考えを上手く伝えるためにはどのようにすればよいかなどを考え、簡単な撮影方法を学ぶ。
○中高生向け
一戸町の特産品や観光名所を紹介する動画を制作する。音声読み上げソフトなども活用しながら、本格的なユーチューバーを目指す。



令和4年3月1日

いちのへ御所野縄文学実践交流会にかかる 町長、教育長による学校訪問について

町長、教育長による各小学校の訪問を行い、いちのへ御所野縄文学実践交流会の講評と次年度に向けたPRのぼりの贈呈を行います。

記

1 日時

令和4年3月11日（金）	13:15～13:30	鳥海小学校
	13:45～14:00	一戸小学校
	14:10～14:25	一戸南小学校
	14:55～15:10	小鳥谷小学校
	15:30～15:45	奥中山小学校

2 訪問者

- (1) 町長 小野寺美登
 - (2) 教育長 中嶋 敦 随員：指導主事
- *町広報の取材が入る場合があります。

3 内容

町長による講評とPRのぼりの贈呈

以上

令和3年度 いちのへ御所野縄文学実践交流会

～発表映像試聴会～

< 次 第 >

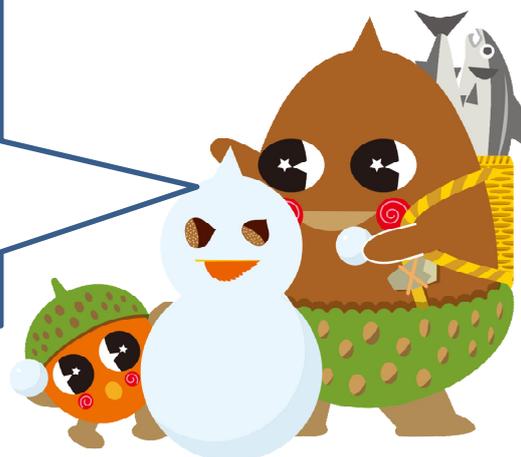
I 開 会

- 1 開会のことば
- 2 あいさつ
教育長 中 嶋 敦 ……DVD 映像
- 3 諸連絡

①各校の友達のよいところ、まねしてみたいところをたくさん見つけましょう！

感想用紙を用意しました。特に心に残った発表について感想を書きましょう。寄せられた感想は、後ほど、各校に届けます。

②いつも通り、マスクをつけ、教室の換気をしながら発表映像を見ましょう。



II 実践交流

- 1 一戸小学校
- 2 一戸南小学校
- 3 鳥海小学校
- 4 小鳥谷小学校
- 5 奥中山小学校

III 感想発表

IV 「講評」及び「のぼり贈呈」

* 3月11日（金）、みなさんが活動や発表をしたご褒美に、小野寺町長と中嶋教育長が、来年度みなさんが使うPRのぼりを届けてくださいます。

V 閉 会

一戸町教育委員会
一戸町教育センター

令和3年度いちのへ御所野縄文学実践交流会

発表要旨等事前資料（一戸町立一戸小学校）

○本校では、3年生「御所野縄文遺跡」、4年生「福祉」、5年生「防災」、6年生「一戸の未来」というテーマで総合的な学習の時間を進めています。今回は、その中でも今年度の5・6年生の実践について報告します。

5年生

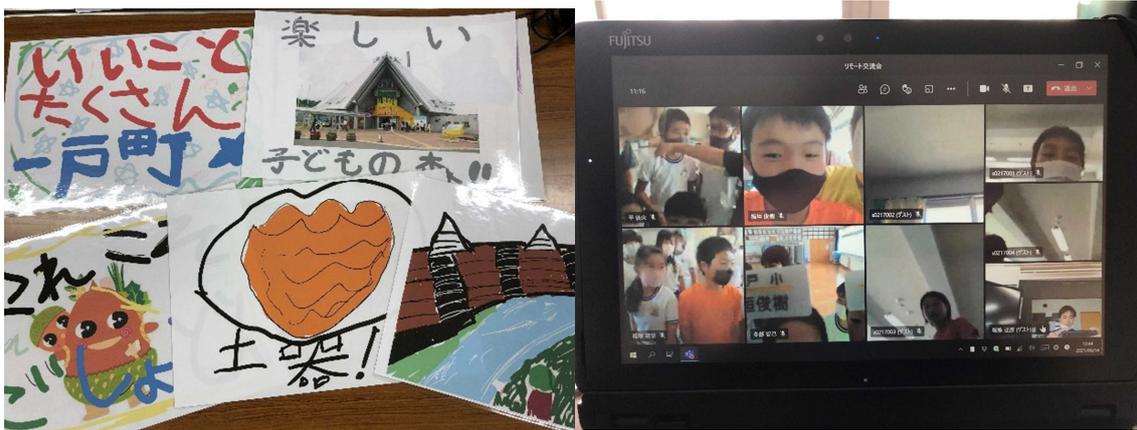
・普代小学校との交流

普代小学校に行って、お互いの町村についてPRをし合いました。今年は、事前に、タブレットを使ってリモートで交流をしたり、御所野縄文遺跡で普代小学校の児童の皆さんを案内したりすることもできました。

6年生

・未来の一戸町を構想

一戸町が活性化するように、地域の人が集まりたくなったり、町外から観光客が来たり、注目されるためにはどうすればいいかということをおグループごとに考えました。「花の丘公園をもっと活用したい」「一戸駅の駅弁を考案したい」「名物やグッズを生み出したい」「空き家を活用したい」「ふるさとCMを作って認知度を高めたい」など、たくさんのアイデアが出されました。



○今後も、一戸町民として、ふるさとPR大使として、一戸の宝を大切に、ふるさとのよさを発信する活動を続けていきたいと思っております。

令和3年度「いちのへ御所野縄文学実践交流会」発表資料

本校で実践している「御所野子どもガイド」は、御所野遺跡の特徴と、自分たちや先輩たちが総合学習で調査した情報を広く伝えることを目標としている。今年度は、世界遺産に登録された記念として、ガイド実践のすべてを町内の高学年のみなさんに紹介したい。

1 子どもガイド活動紹介

スライドを提示しながら、「きききのつり橋」から始まるガイドを会場の皆様に聞いていただく。



<「ききき」のつり橋～全体を見渡せる場所>

タイムスリップ効果をイメージさせる作りや御所野遺跡の最大の特徴をコンパクトにまとめて紹介する。



<土屋根住居>

御所野縄文公園の概要をお話してから最大の特徴である「土屋根住居」のガイドを行う。

<東ムラ 土屋根住居>

土屋根住居の復元の様子を中心に話す。床面を赤土まで掘るのは虫がわからないようにするためであることや、たたき土間にすることで湿気を防ぐこと、生活に多用されているクリの木の特性なども合わせて紹介する。



また、土屋根の厚さ、傾きなど、総合学習の調査活動から分かったことを含めて伝える。

<栗林～ストーンサークル>

命やものに感謝して生活していたと考えられる縄文人の考え方に触れた説明を行う。

<歩きながらの会話・情報>

土屋根住居から中央むらまでの芝生を歩く際には、お客様と話しながら歩くことになる。その時の話題の一つとして

- ・自分たちの調査活動で分かったこと
- ・御所野縄文遺跡の好きなおところや自慢

などを紹介し、聞いている方がより興味・関心をもってくださるように頑張っている。

2 「御所野子どもガイド」の軌跡

高田館長さんの提案を受け、スタートした。初代ガイドは現高校3年生で、6年生は6代目となる。

ガイド原稿は修正しながら引き継ぎ、自分たちらしさを出すために、「総合的な学習の時間」に調査したり実験したりしたことを盛り込み、聞いてくださる方に興味をもってもらえるよう工夫している。

3 まとめ

世界遺産登録のバックアップを目標に活動してきた一戸南小学校の願いが叶った年である。自分たちが感じてきた、御所野遺跡の価値や縄文人の知恵のすばらしさをみんなで確認し、広めていきたい。

いちのへ御所野縄文学実践発表の要旨について

一戸町立鳥海小学校

1 日本のエネルギー問題から

(1) 日本の電力はどのようにして発電されているのか

- ・火力発電が最も多く、他は水力発電、原子力発電、風力発電などがある。
- ・それぞれにメリット、デメリットがあるが、環境のことを考えると「自然エネルギー」を利用した発電が良いと考える。

(2) 自然エネルギーを利用した鳥海地区の「高森高原風力発電所」

- ・高森高原の風力発電所には11機の風車がある。
- ・自然エネルギーである「風」を利用した高森高原の風力発電所が鳥海地区にあることは、私たちの誇りである。
- ・風の強弱により発電に影響があることなどから、様々な節電を実践していくことが必要である。

2 宿泊研修から

(1) 火起こし体験から学んだこと

- ・野外炊飯の際に、火起こし体験を行ったが、火花は少し出たが、最終的に火をつけることができなかった。
- ・火起こしの大変さと、今の生活の便利さが分かった。
- ・木がこすれることで火を起こす縄文人は、自然と共に生きていたことが分かった。

3 御所野縄文公園の利用から

(1) 御所野縄文公園博物館で、職員の方から鳥海地区の遺跡について学んだこと

- ・低学年は、生活科で、御所野縄文公園の見学に行った。
- ・公園内の散策だけでなく、職員の方から鳥海地区にある遺跡についても学んだ。

4 まとめ

- ・高森高原の風力発電所から、鳥海地区の魅力について改めて知ることができた。
- ・低学年が学んだように、鳥海地区には「山井遺跡」などの遺跡があるので、来年度は遺跡から鳥海の魅力を知ってもらいたい。

令和3年度いちのへ御所野縄文学実践交流会 発表の要旨

一戸町立小鳥谷小学校 5・6年生

1. 小鳥谷の宝その①「稲作」

小鳥谷小学校では、毎年5・6年生が地域の方の協力で、稲作活動を行っている。稲の種まきを始め、田植えなどの体験や稲の成長の観察を行ったり、農家の方の話の聞いたりして稲作について学んできた。生産者の方の稲作への思いにも触れ、小鳥谷に広がる田園風景をこれからも残していきたいという思いを、学習発表会で「稲作体験ツアー」として発信した。



2. 小鳥谷の宝その②「高屋敷神楽」

小鳥谷小学校には、古くから伝わる「高屋敷神楽」がある。「高屋敷神楽」は、子供たちにとって残していきたい宝の一つである。しかし、名前は知っているものの、いつから始まったのか、神楽にはどのような意味があるのかなど、知りたいことがたくさん出てきた。インターネットを活用しながら調べたり、高屋敷神楽保存会の方を招いてお話を聞いたりして、高屋敷神楽の魅力に触れることができた。そして、神楽について調べたことをパンフレットにまとめた。



3 小鳥谷の宝を受け継ぐ人たちの思い

稲作や高屋敷神楽を受け継ぐ方々とのかかわりから、「伝統を引き継いでいきたい」という思いをもっていることが分かった。しかし、その一方で、若い人たちが減り、伝統を継承していく人が少なくなってきたことが問題であることが分かった。これからも小鳥谷の宝を大切にしたいという思いを一緒に持ちながら、自分たちにできることは何かを考え、活動していきたいという思いをもつことができた。



令和3年度 いちのへ御所野縄文学 実践交流会 発表資料

一戸町立奥中山小学校

1 今年度の総合的な学習の時間での実践

3年生：「奥中山のじまんを探そう・つたえよう・まとめよう」

- 奥中山の特産物（レタス・酪農）・じまん探し
- アスパラガス農家見学

4年生：「UDについて考えよう」

- 高齢者体験
- 車いす体験
- 認知症講座（ロールプレイング）

5年生：「森林の働き・環境について考えよう」

- ブナ林観察会
- ふるさとPR大使の活動（宿泊研修）
- 高森高原風力発電所見学

6年生：「拓くーわたしの未来・わたしたちの未来ー」

- ふるさとPR大使の活動（修学旅行）
- わたしの未来（自分の将来について考える）
- わたしたちの未来（奥中山・一戸町の将来について考える）



2 実践の紹介 6年：ふるさとPR大使の活動

《学習計画》

- 1：ふるさとPR大使とは何だろう
- 2：PR大使としてどんな活動をするか計画しよう
- 3：PRすることについて話し合おう
- 4：PRの方法について話し合おう
- 5：PRのためのポスターやのぼりを作ろう
- 6：わたしたちのふるさと一戸をPRしよう（修学旅行）
- 7：活動の振り返りをしよう

《修学旅行での活動内容》

- ①のぼりを作り、修学旅行に持ち歩く。
- ②ポスターを作り、ポスターと御所野縄文公園のリーフレットを修学旅行の見学先や宿泊先に贈呈する。



《活動の振り返り》

- ポスターの内容について、どうしたら分かってもらえるか、読んで伝わるような文章になっているかなどをみんなで話し合いながら考えることができた。
- 一戸町には、じまんでできることや特産物、他の地域にはないようなものがたくさんあることを再確認することができた。
- 修学旅行先で、様々な人に会い、一戸町や御所野縄文公園などの魅力を伝えることができた。

